

相武台地区市民レクリエーション大会を開催

連日の好天気の中、「身体を動かすことでコロナ禍のストレスを発散し、会員相互の親睦を図るふれあいの場づくり」を目的に、相武台地区自治会連合による市民レクリエーション大会が10月25日(日)相武台東小学校グラウンドで行われました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者の安全・安心を第一とし、万全な方策を取っての開催となりました。参加者は来賓者など180名ほどとなり予想以上の賑わいとなりました。

早朝から次々と集まる参加者は、まず、受付で体温測定と手指の消毒のあと名簿に登録。受け取った参加者シール(ざまりん)を目立つところに貼り付けて出場資格の登録は完了です。

やがて、開会宣言が始まり国旗掲揚となりましたが、今回は何故か、コロナに打ち勝つ決意を込めた“宣言旗”のようにも見えました。

レース開始にあたり、感染症防止に対する競技上の注意説明を受けてから、いよいよ号砲とともにレースの開始となりました。

各レースにチャレンジ

① 缶釣りレース

釣り竿を握り、糸先の針を缶の口に入れて釣るのが難しく、針を調整したりで手間取る人も多く大幅に競技時間が伸びてしまいました。また、競技毎にスタッフがタオルで入念に除菌を行ったことも時間延長の一因となりました。

② スプーンレース

出場者はスプーンの上にボールを乗せてカラーコーンを周回するのが上手で、今度はボールを落す人が少なく進行が早くなってしまいました。ここでもスタッフが忙しくアルコール消毒を行いました。

③ パン食いレース

全員参加のレースで、今年は小さな子どもやお年寄りにも配慮し、手で取るようにルールを変更しました。こうした中、控えのスタッフもパンの取り付けを応援したため、競技がスムーズに進行できました。

④ 民謡踊り

婦人会が中心となる自由参加の民謡踊りで、感染対策のため間隔を広くとったことにより校庭いっぱい大きな輪となって、座間音頭や炭坑節を2回ずつ踊りました。そんな中、来賓として見えられた芥川県会議員や佐藤新市長らも輪の中に混じり踊っていただきました。

なお、各レース終了毎に小池地区の新鮮野菜や民謡踊りの参加賞として、野菜セットおよびお茶も参加者全員に配られました。お昼時となり気温も上昇したため、半日間の市民レクリエーション大会は早めに閉会となりました。

検温と手指の消毒から



レース毎の消毒に大忙し



自由参加の民謡踊り



第6回 ★防災ミニ情報～備えあれば憂いなし★

災害直後には即、断水しない場合もありますので水は可能な限り備蓄しましょう。ただし、飲み水としては3日間の賞味期限として下さい。